

学校ではできない学び

【学校ではできない学びがある。学校でできないことがあることを自覚しなければならない】

生徒が老人福祉施設へ訪問し、高齢者の皆さんと交流をした。これはある生徒の感想である。

「今日は〇〇園訪問です。歌やハンドベル、マジックどれもこれもちゃんとできるかとても心配でした。会場へ行き、練習してみるとまずまずのでき、これなら大丈夫。本番。おじいさん、おばあさんから「がんばれ。」「いいぞ。」など声がかかります。私が心に今でも残っているのが全員で歌った歌3曲(『北国の春』『校歌』『ふるさと』)。聞こえてくる声が今まで聞いたことのないほど大きな声だったと、私は思いました。一緒に歌ってくれるおじいさん、おばあさん、すごうれしかった。花をあげた時も、とても喜んでくれました。片づけを済ませて、みんなの所に戻ろうとしたら、一人のおばあさんが、私たちを呼びました。そしたら「今もらった花、死んだおとうさんの所に飾ったの。」とうれしそうに言ってくれました。手を合わせて、「ありがとう」と何度も言ってくれました。こんなにうれしいことばをかけてもらった私たちはすごく幸せだと思いました。訪問できて本当によかったと思いました。」

兵庫県出身の作家宮本輝は、阪神淡路大震災で自分の家を失うが、その時書き上げた小説「人間の幸福」の中でこう言う。『自分のためだけに生き、人のために生きたことがない……。そんな人間が寂しいのはあたりまえだ……。』

「こんなにうれしいことばをかけてもらった私たちはすごく幸せだと思いました」とこの生徒は言う。休み時間や放課後、訪問で行う出し物の練習に費やした時間は、少ないわけではない。好きなことをしたい、早く部活動に行きたい、という思いがなかったわけではなからうに。

しかし、今この生徒は「すごく幸せ」と言う。いい勉強をしたなあ、と率直に思う。こんないい勉強は、学校の中ではなかなかできない。

私も、高齢者の皆様に感謝である。